

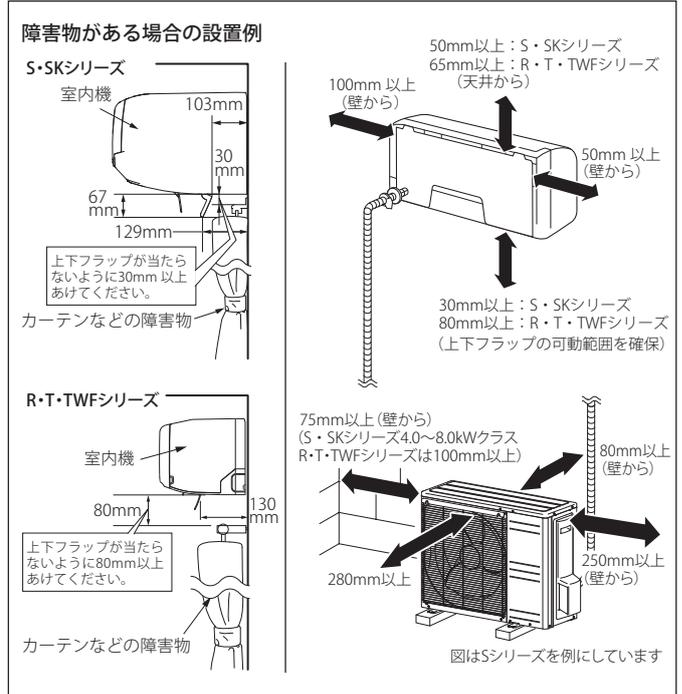
● エアコンの設置場所について

● 室内機設置場所の注意点

- ①風の障害がなく、部屋に冷温風が行き渡る所。
- ②室内機や壁が振動しない丈夫な所。
- ③サービススペースのとれる所。(右図参照)
- ④ドレン排水が容易にできる所。
- ⑤テレビ・ステレオ・ラジオから1m以上離れた所。
(映像が乱れたり、雑音が生じたりすることがあります)
- ⑥高周波機器、電気機器の影響を受けない所。
- ⑦油の飛沫の多い所はさけてください。
- ⑧受信部に直射日光や強い照明灯の光が当たらない所。
- ⑨電子瞬時点灯方式の蛍光灯(インバーター蛍光灯など)とエアコンの本体はできるだけ離してください。リモコンの送信距離が短くなる可能性があります。
- ⑩室内機の下に家電製品や家財などが無い所。
- ⑪火災警報器がエアコンの吹き出し口から1.5m以上離れている所。

● 室外機設置場所の注意点

- ①雨や直射日光のあたりにくい風通しのよい所。
 - ②室外機の質量に十分耐える場所で、運転音や振動が増大しない丈夫な場所。
 - ③サービススペースのとれる所。(右図参照)
 - ④吹き出した風や運転音が隣家に迷惑をかけない所。
 - ⑤吸込口・吹出口付近がふがれない所。
 - ⑥近くに悪臭等がなく空気が清浄な所。
 - ⑦ドレン排水しても問題がない所。
- 下記のような所は避けて設置ください。
- 塩害地、ビル上階部などの常時強風が当たる所。
 - 油・蒸気・油煙の発生する所。
 - 可燃性ガスの漏れるおそれのある所。
 - 小動物のすみかになるような所。
 - ファン吹き出し風が植木等に当たる所。
 - ベランダの手すり近く。



● 冷媒配管距離・異径配管接続可否基準

接続冷媒配管は、配管長・高低差の範囲内で据え付けてください。
(冷媒の追加チャージは必ず行なってください。)

形式	冷媒配管距離の制限値			冷媒の追加チャージ量	異径配管接続可否基準					
	配管長	高低差			既設配管	液管外径	φ6.35	φ6.35	φ6.35	φ9.52
					接続可否区分	φ9.52	φ12.7	φ15.88	φ15.88	φ12.7
ルームエアコン	SRK2226S, 2526S, 2826S, 3626S, 4026S2, 5626S2, 2225S, 2525S, 2825S, 3625S, 4025S2, 5625S2 SRK4026R2, 5626R2, 4025R2, 5625R2 SRK4026T2, 5626T2, 4025T2, 5625T2 SRK4026TW2, 5626TW2 SRK2526SK2, 2826SK2, 4026SK2, 5626SK2	25m	15m	15m	配管長が15mを超える場合 1m当り20g補充	接続可否区分	標準接続	○	×	
						最大配管長/チャージレス配管長	25m/15m	25m/15m		
						許容高低差	室外機下方	15m	8m	
ハウジングエアコン	SRT2823H2, 3623H2, 4023H2, 5023H2 SRT2223H2, 2523H2 SRTW4023H2, 5023H2 SKU2523H2, 2823H2, 3623H2, 4523H2 SRF2823H2, 4023H2, 5023H2	35m	20m	20m	配管長が10mを超える場合 1m当り20g補充	接続可否区分	標準接続	○	▲	
						最大配管長/チャージレス配管長	35[30]m/10m	35[30]m/7m	15m/5m	
						許容高低差	室外機下方	20m	10m	6m
マルチエアコン	SCM4623H2, 5223H2, 5623H2 SCM6023H2 SCM6823H2, 7123H2, 8023H2	1室当り20m 2室合計30m	15m	10m	2室合計の配管長が20mを超える場合1m当り20g補充 全室合計の配管長が40mを超える場合1m当り20g補充	接続可否区分	標準接続	○	▲	
						最大配管長/チャージレス配管長	35[30]m/10m	35[30]m/10m	15m/5m	
						許容高低差	室外機下方	20m	20m	6m

2:1 (マルチタイプで室内機を2台設置の場合)

既設配管		接続可否	
液管外径 (mm)	ガス管外径 (mm)	φ6.35	φ6.35
φ6.35	φ6.35	○	○
φ9.52	φ12.7	○	○
φ12.7	φ12.7	○	○

3:1 (マルチタイプで室内機を3台設置の場合)

既設配管		接続可否	
液管外径 (mm)	ガス管外径 (mm)	φ6.35	φ6.35
φ6.35	φ6.35	○	○
φ9.52	φ12.7	○	○
φ12.7	φ12.7	○	○

4:1 (マルチタイプで室内機を4台設置の場合)

既設配管		接続可否	
液管外径 (mm)	ガス管外径 (mm)	φ6.35	φ6.35
φ6.35	φ6.35	○	○
φ9.52	φ12.7	○	○
φ12.7	φ12.7	○	○

5:1 (マルチタイプで室内機を5台設置の場合)

既設配管		接続可否	
液管外径 (mm)	ガス管外径 (mm)	φ6.35	φ6.35
φ6.35	φ6.35	○	○
φ9.52	φ12.7	○	○
φ12.7	φ12.7	○	○

○は接続可、×は接続不可
上記以外の組合せは原則として接続不可
△、▲は接続可能であるが、冷房能力ダウン(1%/m)
上表のチャージレス配管相当長を超えて最大内外接続配管長までの追加チャージ量は次の計算式で計算してください。
○、△の場合: 20(g/m) × [内外接続配管長(m) - 5m]
▲の場合: 50(g/m) × [内外接続配管長(m) - 5m]

● 既設配管の再利用OK

既設配管がそのまま使えるから、据付工事の時間も短縮。エアコンの入れ替え工事が簡単になりました。

- 既設配管はそのまま再利用OK！（但し、配管厚は0.8mmであることが前提条件です）
- 既設配管の再利用でも、従来冷媒と手間は変わりません。
- 配管作業における「水分・異物混入管理」は従来冷媒（R22）と全く同レベルです。

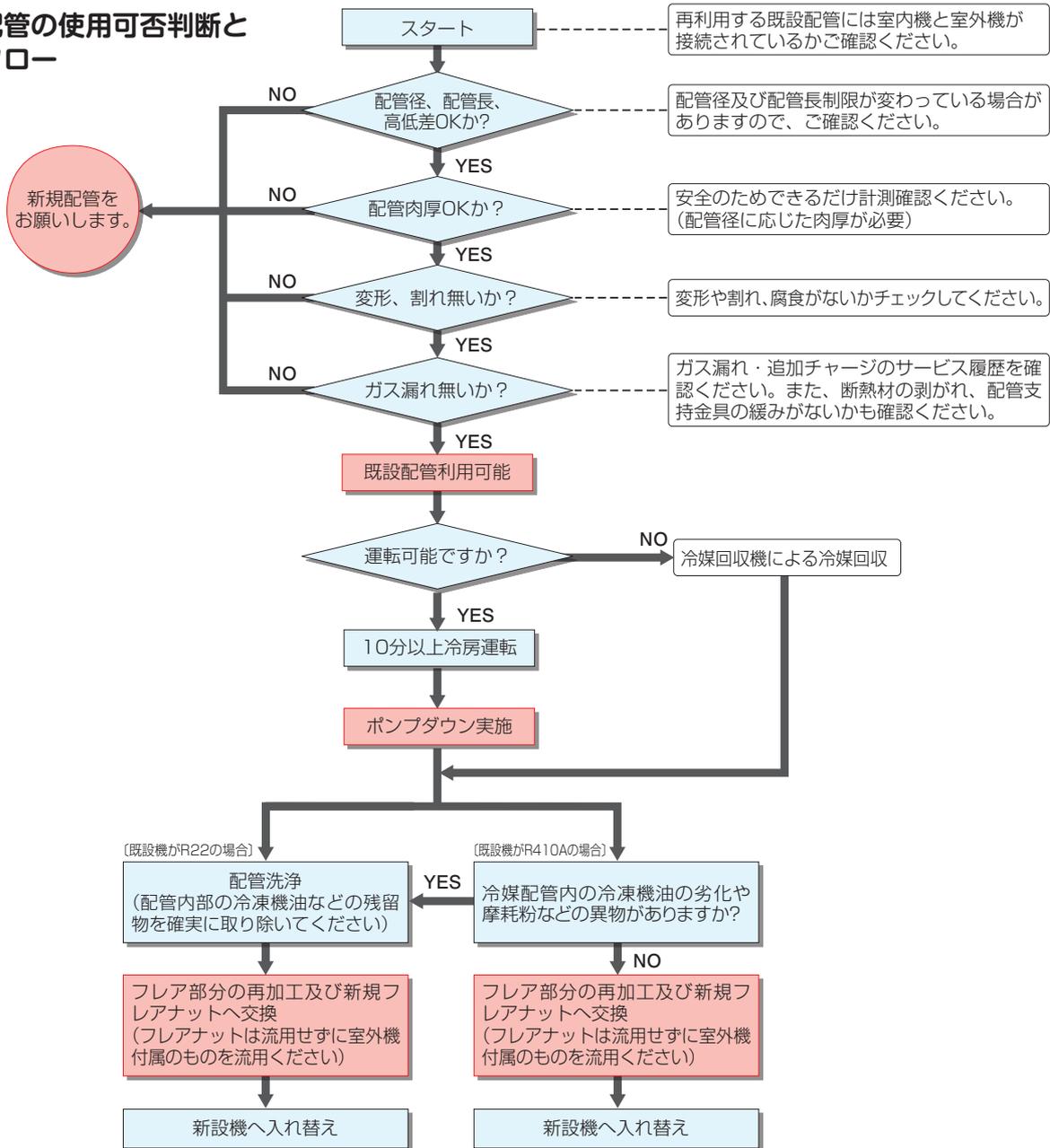
既設配管再利用の場合のご注意

- 古いエアコンの取り外しの際には必ずポンプダウンを行い、冷媒・冷凍機油の回収を行うこと。
- 配管肉厚が0.8mmあること（JIS規格の配管）。

(注) 既設配管の再利用を薦めるものではありません。再利用の可否については施工業者様と打合せください。

* 施工用工具はR410A用をご使用ください。
R32採用商品についてもR410Aと同じ工具類が利用できます。
* 一部の機種では、接続配管径の仕様が異なりますので、この場合は買い替え後のエアコンに合った新しい配管を使用してください。

既設配管の使用可否判断と作業フロー



■ハウジングエアコンの既設配管再利用について

2003年以前に発売されたモデル（形式末尾がAKF、KRZ、KR）からの入れ替えに関しては、冷凍機油が異なりますので、既設配管の内壁に付着の冷凍機油を窒素ブローで取り除くことで再利用が可能となります。ただし、異物がある場合は配管洗浄してください。

●地球環境保全への取り組み：「エコロジー工事」(真空ポンプ式によるエアパージ)

エアコン業界ではオゾン層保護・温暖化防止のため、据付工事の際にも冷媒を大気に出さない「エコロジー工事」を推進しております。この工事には専用工具や専門的な知識・技術が必要とし作業時間を要しますので、工事費用への影響も想定されますが、地球環境保全のため、適切な据付工事の実施にご理解くださいますようお願いいたします。